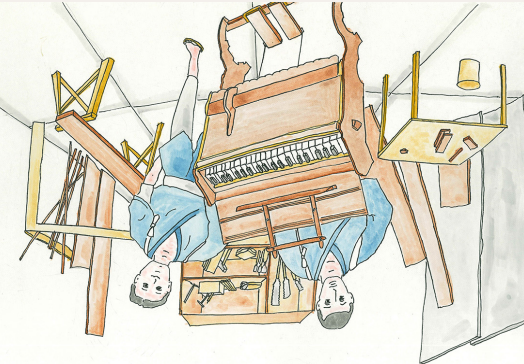


8

苦労を重ねながらも、第 2 号のオルガンが完成しました。

2 人は、再び伊沢先生の審査を受けました。

「外国のオルガンに負けないで。合格！」という言葉をもらいました。



1 か月後、音楽の理論を学んだ寅楠は浜松にもどり、オルガンを取り組みました。

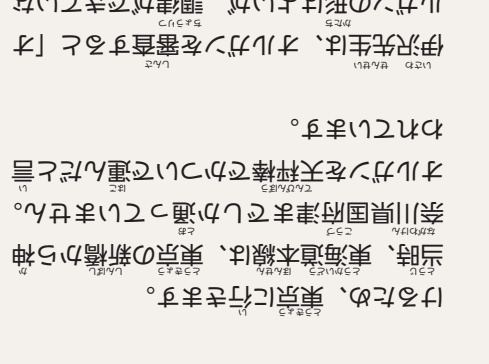
9

けるため、東京に行きます。

当時、東海道本線は、東京の新橋から神奈川奥国府津までしか通っていません。

オルガンを天秤棒でかついで運んだと言われています。


伊沢先生は、オルガンを審査すると「オルガンの形はいいが、調律ができていない。ここを音楽について勉強していきなさい。」と寅楠に言いました。



5

すさまじく寅楠は、カザリ（貴金属加工）職人の河合三郎に協力を求め、オルガンを完成させました。

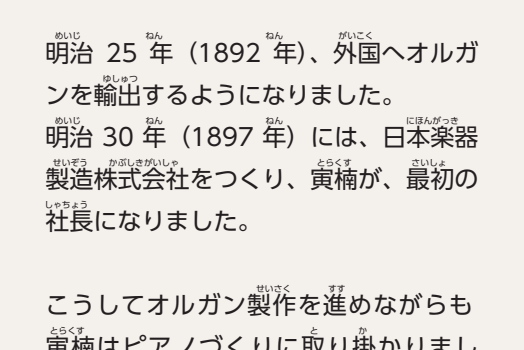
そして、静岡の師範学校の先生から高い評価を得た後、二人は伊沢修二（後の東京音楽学校の初代校長）先生の審査を受



6

寅楠は、明治 20 年（1887 年）今の浜松市中央区成子町の法林寺近く、古いお寺の建物を仕事場としました。

明治 22 年（1889 年）には、浜松駅北側近くに工場を建てて移りました。



明治 25 年（1892 年）、外国へオルガンを輸出するようになりました。

明治 30 年（1897 年）には、日本楽器製造株式会社をつくり、寅楠が、最初の社長になりました。

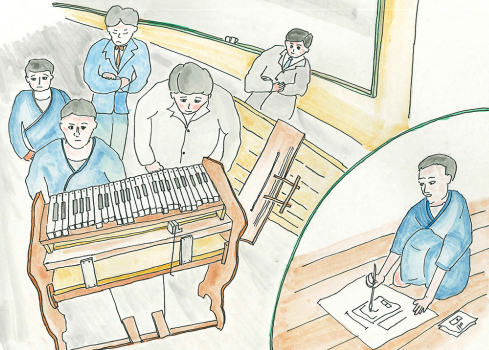
こうしてオルガン製作を進めながらも寅楠はピアノづくりに取り掛かりました。

しかし、ピアノの構造は、オルガンよりはるかに複雑です。

3

そんな折、寅楠は、浜松の小学校の校長先生から、1 台のオルガンの修理を頼まれます。

明治 20 年（1887 年）寅楠 36 才。「楽器のまち」の種が、まかれました。

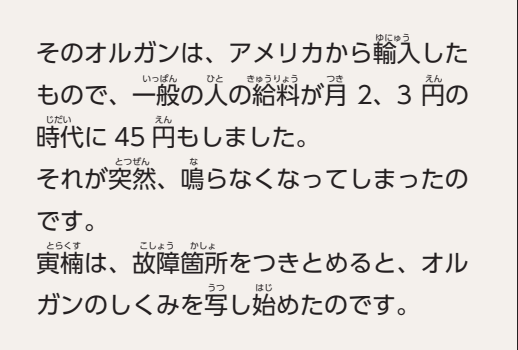


4

そのオルガンは、アメリカから輸入したもので、一般の人の給料が月 2、3 円の時代に 45 円もしました。

それが突然、鳴らなくなってしまったのです。

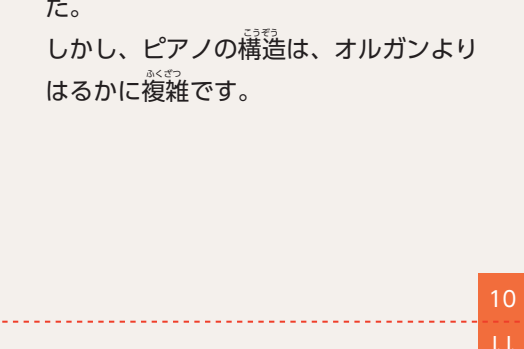
寅楠は、故障箇所をつきとめると、オルガンのしくみを写し始めたのです。



12

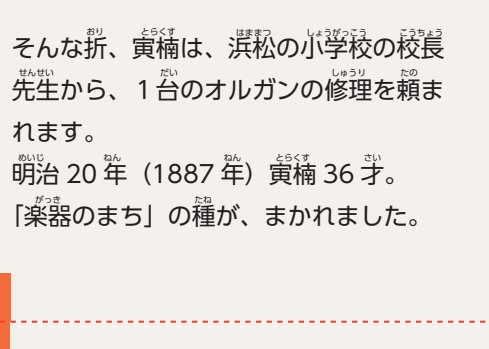
次の年から、アッパライトピアノの生産を始めました。

明治 35 年（1902 年）には、グランドピアノを完成させ、セントルイス万国博覧会で、ピアノとオルガンに銀賞が贈られるまでになりました。



10

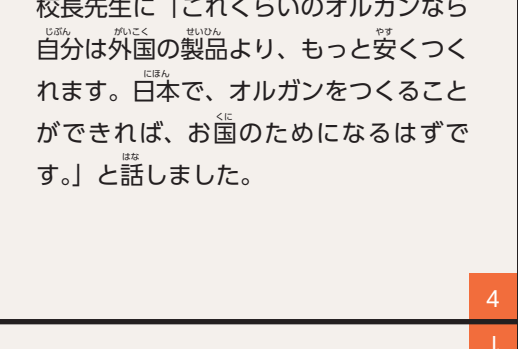
そこで、明治 32 年（1899 年）一人アメリカに渡った寅楠は、いくつものピアノ工場を見学し、製造方法から工具まで詳しく学んだり、部品を購入したりしました。



1

山葉寅楠は嘉永 4 年（1851 年）今の歌山県に生まれました。

10 代から 20 代の寅楠は、江戸から明治へと時代の大きな流れの中で、興味あるものを求め、いろいろなところに行きました。



13

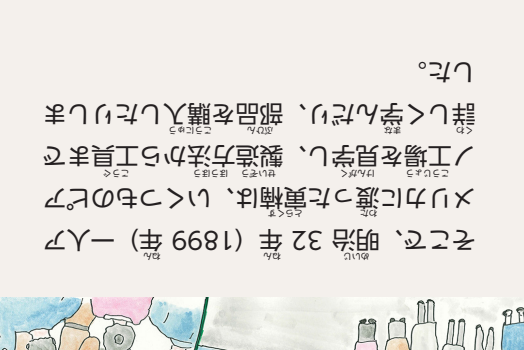
こうして、浜松の楽器産業の種をまいた山葉寅楠は、大正 5 年（1916 年）65 年の生涯を閉じました。

寅楠が活躍した場所を見てください。

寅楠が壊れたオルガンに出会った浜松の小学校は、後の元城小学校よりも南にありました。

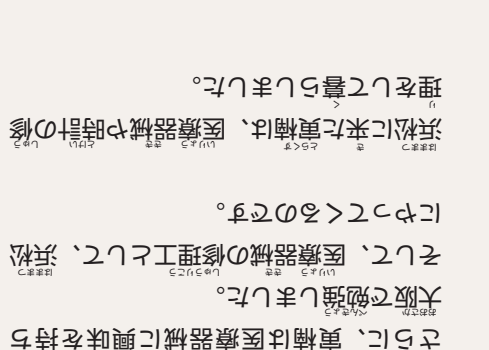
寅楠がオルガンをつくり始めた、もと普大寺があったところに、今は「オルガン坂」という名前が残っています。

今のヤマハの本社が、中浜町にあります。




14

浜松は、活躍した山葉寅楠を身近に感じる「楽器のまち、音楽のまち」なのです。



浜松科学館で会いましょう！



常設展 2 階 展示「山葉寅楠」

主な参考資料

- ・「社史」日本楽器製造株式会社 編／日本楽器製造株式会社
- ・企業サイト「ヤマハ株式会社」

浜松科学館
Hamamatsu Science Museum

作成：2025 年 監修：ヤマハ株式会社

浜松の偉人シリーズ ミニ折本

1 台のオルガンから始まった浜松の楽器産業

1851 ~ 1916 山葉寅楠

なぜ、浜松で楽器産業が発展したのでしょうか。そのきっかけは、1 人の人物と 1 台の壊れたオルガンとの出会いにありました。その人物の名前は、山葉寅楠。

作成：浜松科学館 監修：ヤマハ株式会社